

文化庁
メディア芸術祭
石垣島展
JAPAN MEDIA
ARTS FESTIVAL in
ISHIGAKI-JIMA ISLAND

ひかりきらめくイマジネーション

実施報告書

平成 30 年 2 月

文化庁メディア芸術祭石垣島展実行委員会

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

目 次

実施成果基礎情報	3
企画の目的と意図	9
企画方針	11
会場	13
展示構成	16
上映	22
関連催事・ワークショップ・プロジェクト	24
協賛企画	27
アンケート評価	29
広報実績	41
アドバイザーボード	45
本事業のまとめ 石垣島からのアートによる振興に向けて	47

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

実施成果基礎情報

タイトル 文化庁メディア芸術祭石垣島展「ひかりきらめくイマジネーション」

主催 文化庁

共催 石垣市

実施 文化庁メディア芸術祭石垣島展実行委員会（石垣市）

協力 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 八重山島材研究モッコク会 株式会社ネイキッド

東京 2020 文化オリムピヤード 参画プログラム

実施会場 石垣市民会館 特設会場（沖縄県石垣市浜崎町1丁目1-2）

新栄公園（浜崎町）

まちなか交流館ゆんたく家（ユーグレナモール内）

石垣港離島ターミナル（美崎町）

ホテルエメラルドアイル（美崎町）

伊原間会場（石垣市伊原間 119 番地）



図：会場配置地図

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

開催期間 平成 29 年（2017 年）11 月 29 日（水）～12 月 17 日（日） 会期中無休

※12 月 1 日・3 日のみ「市民会館特設」会場のみ休会

12 月 10 日午後のみ「ゆんたく家」会場 1 階のみ休会

開催時間 13:00～19:00 ※ 土曜・日曜のみ 10:00～19:00

映像上映開催日時・実施会場

11 月 29 日（水）17:54（石垣島日没時間）～ 会場：新栄公園

11 月 30 日（木）17:54～ 会場：石垣市民会館大ホール ※荒天のためホール開催に変更

12 月 10 日（日）13:00（一回目）～ 16:00（二回目）～ 会場：石垣市民会館大ホール

入場料 無料

総入場者数 45,009 人

監修 アドバイザリーボード 中島信也 四方幸子 工藤健志 岡田智博

製作ディレクター 岡田 智博

石垣市民会館特設会場展示デザイン 長岡 勉

（出展作家）

立体展示

石垣市民会館 特設会場

『モルフォタワー』 児玉幸子 第 5 回アート部門大賞受賞作家作品

『Vomoder』 クワクボリョウタ 第 7 回アート部門大賞受賞作家作品

『プラモデルによる空想具現化』 池内啓人 第 17 回エンターテインメント部門優秀賞

『life-size』 scope+橋本典久 第 8 回アート部門奨励賞

『nubot』 林智彦／千房けん輔／堀尾寛太／anno lab／徳井綾 第 16 回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

ホテルエメラルドアイル

『10 番目の感傷（点・線・面）』 クワクボリョウタ 第 14 回アート部門優秀賞

まちなか交流館ゆんたく家（2 階）

『百年海図巻[上映時間: 100 年]』 チームラボ 第 14 回アート部門審査委員会推薦作品

石垣港離島ターミナル

『Pokémon GO』 『Pokémon GO』制作チーム 第 20 回エンターテインメント部門優秀賞

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

伊原間会場

『コロイドディスプレイ』 落合陽一 第20回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品の作家による作品

映像展示

まちなか交流館ゆんたく家 (1階)

『The Wound』 Anna BUDANOVA 第18回アニメーション部門大賞

『Rhizome』 Boris LABBÉ 第19回アニメーション部門大賞

『A Love Story』 Anushka Kishani NAANAYAKKARA 第20回アニメーション部門優秀賞

『Among the black waves』 Anna BUDANOVA 第20回アニメーション部門優秀賞

『岡崎体育「MUSIC VIDEO」』 岡崎体育／寿司くん 第20回エンターテインメント部門新人賞

『ムーム』 堤 大介／ロバート・コンドウ 第20回アニメーション部門新人賞

『I Have Dreamed Of You So Much』 Emma VAKARELOVA 第20回アニメーション部門新人賞

『Rebellious』 Arturo “Vonno” AMBRIZ / Roy AMBRIZ 第20回アニメーション部門新人賞

マンガ部門

石垣市民会館特設会場 読書コーナー

『BLUE GIANT』 石塚真一 第20回大賞

『総務部総務課山口六平太』 高井研一郎／原作：林律雄 第20回優秀賞

『未生 ミセン』 ユン・テホ／訳：古川綾子／金承福 第20回優秀賞

『有害都市』 筒井哲也 第20回優秀賞

『Sunny』 松本大洋 第20回優秀賞

『応天の門』 灰原葉 第20回新人賞

『月に吠えらんねえ』 清家雪子 第20回新人賞

『ヤスミーン』 畑優似 第20回新人賞

『かくかくしかじか』 東村アキコ 第19回大賞

『五色の舟』 近藤ようこ／原作：津原泰水 第18回大賞

『ジョジョリオン —ジョジョの奇妙な冒険 Part8—』 荒木飛呂彦 第17回大賞

『闇の国々』 Benoît PEETERS / François SCHUITEN 第16回大賞

『土星マンション』 岩岡ヒサエ 第15回大賞

『ヒストリエ』 岩明均 第14回大賞

『ヴィンランド・サガ』 幸村誠 第13回大賞

『ピアノの森』 一色まこと 第12回大賞

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

『モリのアサガオ』 郷田マモラ 第11回大賞

『太陽の黙示録』 かわぐちかいじ 第10回大賞

『失踪日記』 吾妻ひでお 第9回大賞

『夕風の街 桜の国』 こうの史代 第8回大賞

※ 関連作品として『この世界の片隅に』 こうの史代 第13回優秀賞作品もあわせて展示、および長編映画『この世界の片隅に』を上映（後述）

『カジムヌガタイ-風が語る沖縄戦-』 比嘉遼 第7回大賞

『セクシーボイス アンド ロボ』 黒田硫黄 第6回大賞

『F氏の日常』 福山庸治 第5回大賞

『バガボンド』 井上雄彦／原作：吉川英治 第4回大賞

『アイ' ム ホーム』 石坂啓 第3回大賞

『坂本龍馬』 黒鉄ヒロシ 第2回大賞

『マンガ日本の古典』 株式会社中央公論社（全32巻） 第1回大賞

映像上映

『君の名は。』 新海誠 第20回アニメーション部門大賞（上映：石垣市民会館大ホール）

『父を探して』 Alé ABREU 第20回アニメーション部門優秀賞（上映：新栄公園）

『映画「聲の形」』 山田尚子 第20回アニメーション部門優秀賞（上映：新栄公園）

『ジョバンニの島』 西久保瑞穂 第18回アニメーション部門優秀賞（上映：石垣市民会館大ホール）

『この世界の片隅に』 片渕須直（監督） こうの史代（原作） ※原作が第13回マンガ部門優秀賞を受賞（上映：石垣市民会館大ホール）

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

関連事業

プラモ虫をつくろう 事業種別：ワークショップ

開催日時・実施会場

12月2日（土） 13:00～16:00 石垣市民会館特設会場（石垣島展展示会場）

12月3日（日） 9:30～12:30（一回目） / 14:00～17:00（二回目） 石垣市役所第一会議室

講師：橋本典久

長岡 勉×モッコク会と「作る」を学ぶ木工ワークショップ 事業種別：ワークショップ

開催日・実施会場 11月25日（土）・26日（日） 前木組

講師：長岡勉 指導補助：八重山島材研究モッコク会

高校生による展覧会ガイド 事業種別：プロジェクト

開催日 12月9日（土）・10日（日）・16日（土）・17日（日）

実施会場 石垣市民会館特設会場 指導：岡田智博

アドバイザリーボードによるシンポジウム「島で広がったメディア芸術の世界」

事業種別：シンポジウム

開催日時・実施会場 12月7日（木） 19:00 石垣市民会館大ホール

講師：中島信也（CMディレクター、第7～9回エンターテインメント部門審査委員） 四方幸子（キュレーター、第13～14回アート部門審査委員） 工藤健志（青森県立美術館学芸員、第19～21回エンターテインメント部門審査委員） 岡田智博（アートマネージャー・ディレクター、アドバイザリーボード制作担当）

ラウンドトーク「島からアートをつくる」 事業種別：交流プログラム

開催日時・実施会場 12月13日（水） 19:00～ 石垣市民会館ロビー

講師：椿昇（現代美術家） 藤岡定（第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品『nubot』作家（anno lab メンバー）） 青木省悟（石垣市地域おこし協力隊）

ファシリテーター：岡田智博

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

文化観光つんまあせ一会 ～ クリエイティブカフェ in 石垣島 事業種別：交流プログラム

開催日時・実施会場 12月16日（土） 13:30～ 石垣市民会館中庭

講師：佐々木雅幸（同志社大学特別客員教授、文化庁地域文化創生本部主任研究官） 大工哲弘（音楽家、沖縄県無形文化財（八重山古典民謡）保持者、琉球民謡音楽協会名誉会長） 太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター長、独立行政法人国立博物館理事）
ファシリテーター：岡田智博

作品解説

実施会場：石垣市民会館特設会場

開催日時・講師

- 11月29日（水） 14:00 講師：クワクボリョウタ・池内啓人
- 12月2日（土） 17:00 講師：橋本典久
- 12月4日（月） 17:30 講師：岡田智博
- 12月9日（土） 17:30 講師：岡田智博
- 12月17日（日） 17:30 講師：岡田智博

協賛企画

やえやまアートホッピング 事業種別：市民参加型アート・クリエイティブ展示・イベント

主催：やえやまアートホッピング実行委員会

会場：石垣島を中心とした八重山各所

会期：11月29日（水）～12月17日（日）

STARLIGHT NIGHT 事業種別：屋外アニメーション上映

主催：石垣市 会場：新栄公園

日時：11月24日（金） 18:00～

人工知能美学芸術展 事業種別：美術展覧会

主催：人工知能美学芸術研究会 [AI 美芸研] 沖縄科学技術大学院大学

会場：沖縄科学技術大学院大学（沖縄県恩納村）

会期：11月3日（金）～2018年1月8日（月）

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

企画の目的と意図

事業の目的

文化庁メディア芸術祭地方展を開催することで、地方において優れたメディア芸術を鑑賞する機会を提供することにより、メディア芸術の創造とその発展を図り、もってわが国日本のメディア芸術の発展に資することを第一の目的とします。

特に、本事業を実施する石垣市は、沖縄本島と台湾との中間に位置する日本最南端の都市であり、八重山地方の中核都市である。本島と異なる風土を特徴に、年間120万人以上の旅行者（うち20万人が外国から）を国内外から集めるわが国有数の滞在型観光地であるとともに、人口増を続ける稀有な離島として、文化観光による地域づくりが積極的に進められています。実施年である平成29年は、市政70周年であり、文化観光の一層の発展の機会として、アジアに広がる交流の場として、また、離島で育つ青少年や若者に向けた質の高い文化的希望として、沖縄県におけるメディア芸術の発展に資することを、当地における実施目的として掲げます。

テーマ ひかりきらめくイマジネーション

石垣市は、世界の中でも豊かな自然を持つ離島エリア（八重山諸島）であり、また、世界的な制度である「星空保護区」の認定を受けるように、昼は珊瑚礁が織りなす七色の海の光が、夜は澄んだ空に映える星々が美しい島です。

古来より人々は星空の光に思いを馳せ、その探求心により、ついには光を操る表現として、メディア芸術を生み出した。昼のサンゴ礁を美しく照らす光、夜の豊かな星空、天然の光あふれる石垣島を舞台として、メディア芸術の創造の光を照らしてゆきます。

満点の空の下での屋外上映など、多くの人々を魅了する島の風土の中で展開する展示は、ともすればテクノロジーや都市の閉じた世界に寄って想起されがちな表現たちを解き放ち、新たな感動を喚起させることを期待します。

企画意図

本展は、石垣市を中心とする八重山地区にとってはじめての全国を対象にした大規模な現代のアートを主題とした文化芸術事業になります。

多くの移住者や観光客に恵まれるだけでなく、島で生まれ育つ子どもたちが多い、離島でありながら人が増え続けている地域であります。その一方で、美術館がなく、高校までしか教育機関もなく、映画館もないように、新しい文化や芸術に触れる機会がなく、多くの市民が島で体験できることを求めています。

しかし、触れられる機会がないことにより、他の進んだ所のように、地域みずから、そのような新しい

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

文化を創生する機会やノウハウを持つことが、極めて難しいものになっております。

新たな世代が生まれ、外からの活気があふれる島として、国内外の芸術家やクリエイターからも石垣島を舞台にした活動に興味を持たれることが多く、また、さまざまな人々から新たな文化や表現が島で起こることを期待されている一方で、なかなか一歩踏み出せない状況にありました。

石垣島での文化庁メディア芸術祭の地方展の開催により、選りすぐりのメディア芸術を島の風土にあわせて展示・公開する企画を通じて、なるべく多くの製作を市民が取り組み、そして、鑑賞することで、八重山地域における新しい文化と触れられる可能性を高めるとともに、島自身で取り組める経験やノウハウを得ることを意図として取り組みました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

企画方針

本事業は、3つの企画方針に基づいて、実施しました。そして、企画意図にあるように、八重山地域における文化芸術を通じた地域創生の取り組みとして、なるべく多くの事業を市民が専門家等との共創をすることにより、島外と交流しながら質の高い新たな文化や芸術を地域自身の手によって島で展開できる経験および機会となる実施企画づくりを行ないました。

1. 島の青少年やわが国有数の離島来島者にとって、メディア芸術が資するものとなるために「未来への希望や可能性を実感できる」作品を特に選び、展示を実施

人口約5万人の離島である石垣島は、130万人もの入域観光客、それも外国から30万人ほどの来訪者があるように、日本の観光において特に高い成長が続いています。また、人口の社会増、自然増が続く、日本でも類いまれな離島として発展を続けています。これらの成長を持続的なものとするため、創造的な島づくりの取り組みがはじまろうとしています。

その一歩として、日本珠玉のメディア芸術を島で展示することにより、次世代の島人と来島者それぞれにとって「未来への希望や可能性を実感できる」魅力ある文化的体験の導入の機会とします。本展は、新たな島の魅力としてのアートによる交流拡大に向けた取り組みの先鞭となるもので、文化庁メディア芸術祭の地方展にとって、沖縄県においても初開催となるものです。

そのため、これまで20年の文化庁メディア芸術祭受賞作品等の中から、世代や背景をこえて感動でき、展示可能な作品を選び、メディア芸術への理解を促進させます。

2. 世界有数の美しい星空、独自の風土、島が持つ特有の環境を活かすことにより、作品に対する感動をより喚起される、他ではできない石垣ならではの公開を実施。

「ひかりきらめくイマジネーション」というテーマに込めましたように、石垣島には世界有数の美しい星空と、国際的に評価される珊瑚礁、豊かな実りを育む常に温暖な気候、黒潮の流れを通じた古くからの人々の行き来を反映した営みが織りなす、厚みのある環境と文化を有しています。深い創造性や先端的な科学技術によって表現されたメディア芸術と、島の風土が展示や上映で重なりあうことを通じて、作品に対するより一層の感動、そして、アートによる島の地域創生や次の世代に対する学びの可能性を喚起していきます。また、島内の集落の民家を用いた展示や、市民会館特設会場での島内産木材を用いたアクセント、高校生による外国語による会場案内など、石垣市初の大規模な芸術祭の開催の機会を活かした、これからの文化芸術による地域創生の可能性にチャレンジします。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

3. 本年の文化庁メディア芸術祭受賞・入選発表後の開催として、今年の優秀な作品に触れることができる展示を実施。

東京において第 20 回文化庁メディア芸術祭の受賞作品展が開催された 2 か月後に実施する本展として、最新のメディア芸術の表現に島にいながら触れられる機会とするとともに、石垣島での展示テーマにふさわしい受賞作品等を展示します。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

会 場

本事業の展示は、美術館等の美術展示施設が無い市内において、今後、質の高い美術企画を開催することを念頭に、展示および上映会場を決定しました。

展示会場の選定条件

展示会場の選定にあたり、①今後に向けてある程度の規模の美術展示が可能であり集客が見込める公共空間、②市内において美術展示が可能な空間、③島民や来島者が作品と接しやすい場所、④今後、島でのアートプロジェクトの展開において経験となり、訴求性の高い場所、の4つの要素それぞれに選び、回遊することにより島の風土とあわせより多くの体験を可能できるようにすることを企図しました。

上映会場の選定条件

上映会場の選定においては、①石垣島だからこそできる体験を提供できる上映会場、②①の会場のバックアップとなる会場、③短編映像においては何時でも親しめるより多くの人々にメディア芸術を接してもらえる会場、の3つのそれぞれの要素から選びました。

これらの選定条件によって、石垣島でできる美術展示や上映の可能性を出来る限り多彩に実行することにより、本展の演出をより豊かなものとするとともに、今後の島でのアートプロジェクトに向けた経験を涵養していきました。

(展示会場)

● 石垣市民会館 特設会場

日本の近代建築の第一人者である前川國男が最晩年に設計した大規模施設です。石垣島では唯一といってもいいほどの作品性のある近代建築として、島の文化の拠点としてより一層の活用が求められています。劇場だけではなく、空間の持ち味を活かした質の高い美術展示や文化的催事を行なう「創造の場」を企図して、主にホワイエの空間をメインの展示会場として使用しました。また、「創造の場」としての拡張性として、シンポジウムやワークショップ等の関連企画を実施しました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

● ホテルエメラルドアイル

中心市街地に位置する同ホテルは、クリエイティブをテーマとしています。そのため、ロビー部分に地元のクリエイターの作品を企画展示するギャラリーを持っており、島でも数少ないホワイトキューブの空間をつくることができます。

徒歩での会場間回遊が可能な立地となっています。

● まちなか交流館 ゆんたく家（2階）

中心市街地の商店街に位置する古民家をイメージした交流スペースの2階部分は、仮設で映像作品等において必要とされる暗所を設営することが可能な空間となっています。

徒歩での会場間回遊が可能な立地となっています。

● 石垣港離島ターミナル

竹富町へのゲートウェイとなるターミナルとして、観光客を含む多くの人々が行き来する施設です。その特性を活かし、どこからでも鑑賞できるシンボリックな作品の配置を行ないました。

徒歩での会場間回遊が可能な立地となっています。

● 伊原間会場

石垣島の風土とともに作品が惹きたつ、中心地から距離が離れてもわざわざ鑑賞したくなる、地域にとってかけがいのないものとなる展示ができる会場探しを行ないました。地域に展開するはじめての美術企画として、地域の中での管理体制などの危惧（不特定多数の人々が学校や公民館など公共施設に入るなど）により、使える場所が私的な場所に今回、限られました。その案の中より、青木省悟石垣市地域づくり協力隊員が交流の場として確保した民家を岡田ディレクターが実見、古くからの形態が残る作業小屋が、風土の面影を湛えながら、ほとんど手をかけなくても展示可能である点を評価、展示会場としました。

この会場のみ、一日数本のバスのみでの公共交通となりますが、地域の協力により広い面積の駐車スペースを確保し、利便性をはかりました。

（上映会場）

● 新栄公園

中心市街地に位置する都市公園であるとともに、無料コンサート等が行われる市最大の祭りである「石垣島まつり」の会場など、島民が集う重要イベントの会場に使われています。映画館がない島である一方、屋外でイベントを楽しむことが日常にある島らしさを活かし、長編映画作品は市民が集う同公園の屋外上映とし、島だからこその星空の下での体験を提供しました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

● 石垣市民会館 大ホール

荒天時のバックアップとして、屋外上映会場である新栄公園に道を隔てて隣接する石垣市民会館の大ホール（最大収容人数 1,000 人）を会場として用意しました。

実際に、屋外での上映が不可能となった『君の名は。』の上映の実施や、荒天となった 11 月 30 日の代替上映会場として使用しました。

● まちなか交流館 ゆんたく家（1 階）

中心市街地の商店街に位置する古民家をイメージした交流スペースの 1 階部分は、商店街に訪れる人々が自由に憩える座敷と縁側となっています。このように敷居が低い一方で、鑑賞しやすい場にて短編映像の上映をループに行うことにより、さまざまな人たちにメディア芸術の映像の魅力に出会い、接してもらえる、親しみやすい場としました。



会場配置図（再掲）

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

展示構成

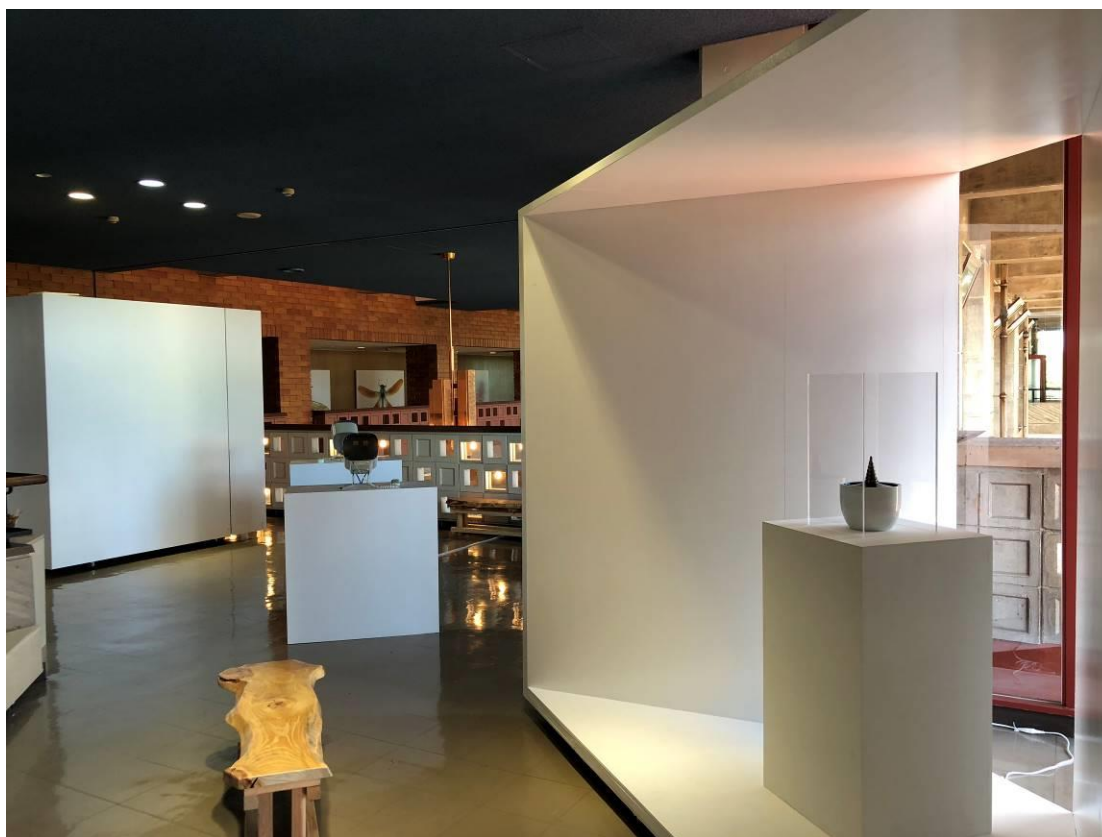
本事業の展示構成は、旧 ZAIM（横浜市）や札幌芸術の森センター（札幌市）など、美術展示に特化した設えではない会場を用いて、メディア芸術の横断的な企画展示にとり組んできた製作ディレクターの岡田智博による指導と、同じく美術展示空間以外での展示構成に実績を持つ建築家の長岡勉による石垣市中心市街地部の展示空間デザインにより、展示を構成しました。

構成要素として、石垣市内の人的リソースを用いて製作することを第一に、作品の鑑賞に最適な展示空間づくりとともに、市内の各施設に実現することを重きに置きました。そのことにより、美術展示を中心とした文化事業を、今後、島内の人々が中心となって作りあげられる経験としての下地づくりにねらいを置きました。

また、市民にとっての参画要素として、石垣島産の材木（島材）の活用を推進する市民グループ「八重山島材研究モック会」の指導のもと、島内の高校生が石垣市民会館特設会場にて用いるベンチを、島材を用いて製作するワークショップを実施、開始前の機運向上に資するものとなりました。

● 石垣市民会館 特設会場

市民会館の1階をアプローチとして本事業の内容揭示を行い、2階のホワイエ部分に5点の作品展示とマンガ部門の読書ゾーンを設置しました。



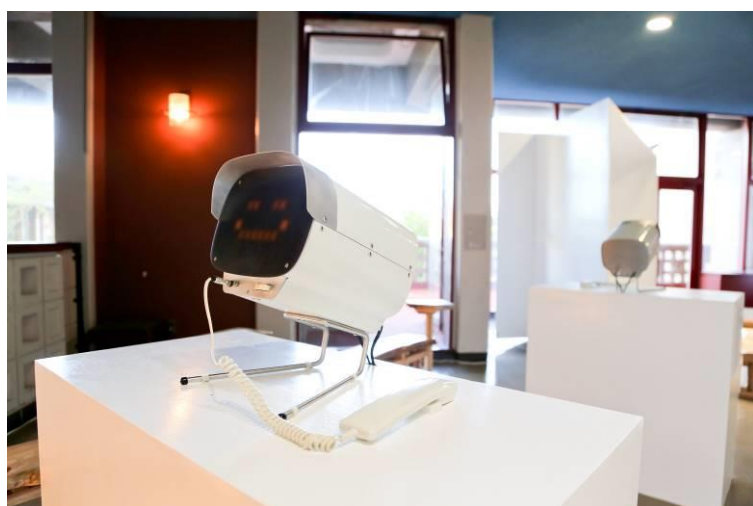
石垣市民会館 特設会場 展示全景

文化庁メディア芸術祭石垣島展

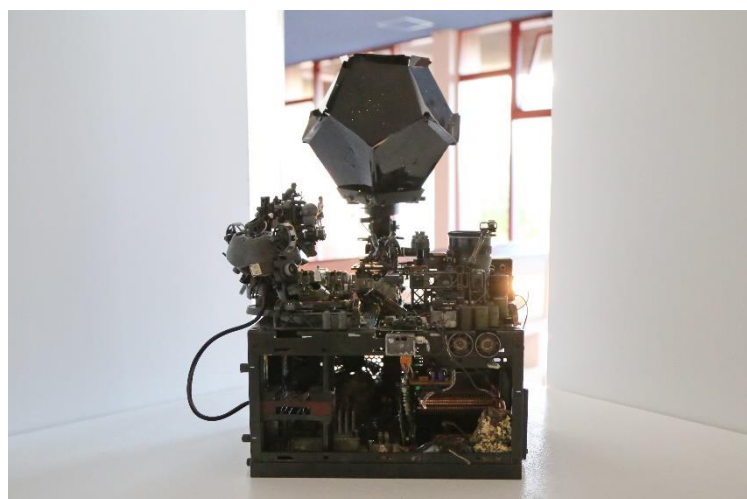
ひかりきらめくイマジネーション



『モルフォタワー』 児玉幸子
第5回アート部門大賞受賞作家作品



『Vomoder』 クワクボリョウタ
第7回アート部門大賞受賞作家作品



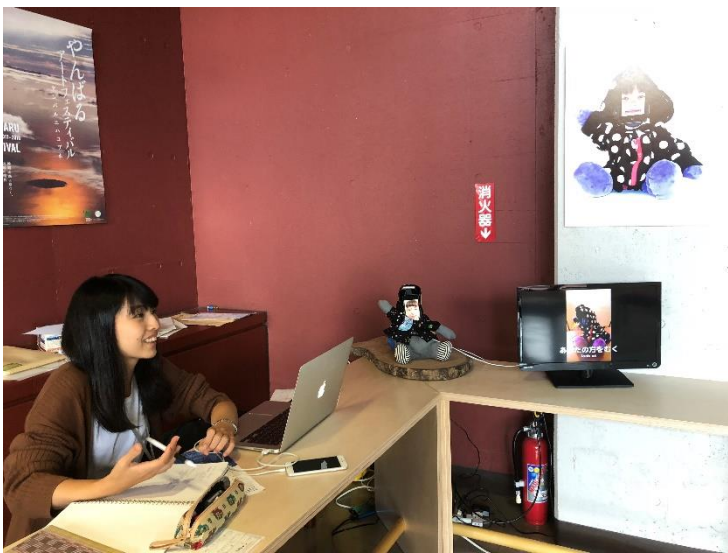
『プラモデルによる空想具現化』
池内啓人
第17回エンターテインメント部門
優秀賞

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション



『life-size』 scope+橋本典久
第8回アート部門奨励賞



『nubot』
林智彦／千房けん輔／堀尾寛太／anno
lab／徳井綾
第16回エンターテインメント部門審査委員会推薦作品

※ 左側：
本展インフォメーション



マンガ展示・読書コーナー

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

● ホテルエメラルドアイル

ホテル2階ロビー部分にあるギャラリーにて、暗所かつ、なめらかな床と壁面を必要とする作品を展示しました。



『10番目の感傷（点・線・面）』

クワクポリヨウタ

第14回アート部門優秀賞



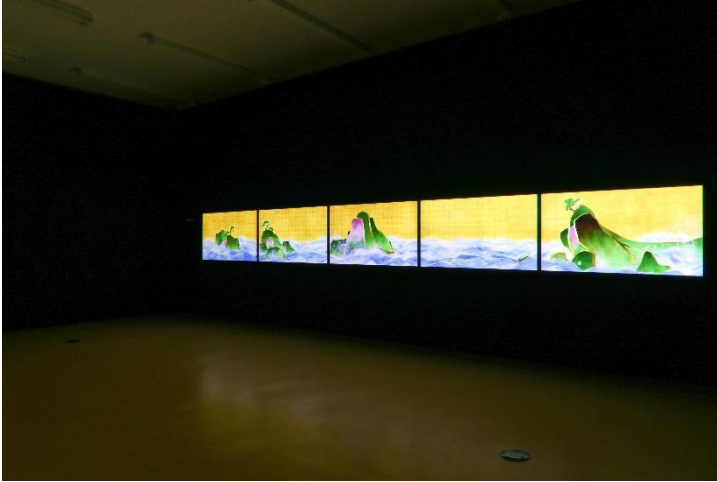
作品展示入口

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

● まちなか交流館 ゆんたく家（2階）

暗所上映を要する作品を展示しました。



『百年海図巻[上映時間: 100 年]』

チームラボ

第 14 回アート部門審査委員会推薦作品

● 石垣港離島ターミナル

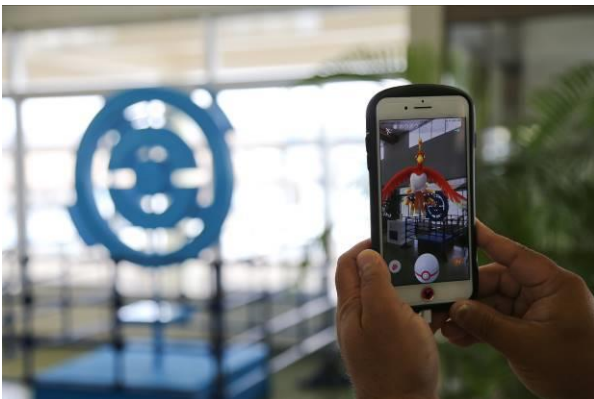
多くの人々が行き来するターミナルの特性を活かし、栈橋へのアプローチ横にシンボリックな作品を設置しました。



『Pokémon GO』

『Pokémon GO』制作チーム

第 20 回エンターテインメント部門優秀



文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

● 伊原間会場

美術展示空間として、転用可能な古民家の作業小屋を用い、部屋内の清掃と安全対策を施したうえ、集落で用いられてきた家具や什器を転用することにより、地域の風土と作品が映し出す「新たな自然」を溶け込ませた空間をつくりあげました。



『コロイドディスプレイ』 落合陽一
第 20 回エンターテインメント部門審査
委員会推薦作品の作家による作品



文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

上 映

作品上映は、短編上映を中心市街地の人々が憩う場に大型ディスプレイを設置して実施しました。長編については温暖な気候と美しい星空、日常的に屋外イベントを実施する島の風土を活かした上映を、中心市街地にある都市公園で実施、あわせて荒天時の予備として、隣接する石垣市民会館の大ホールを会場として用意しました。

結果として、11月29日の屋外上映は実施、11月30日に予定しておりました屋外上映は荒天のため石垣市民会館大ホールにての開催となりました。また、12月10日の上映は映画配給側からの要請により石垣市民会館大ホールでの屋内上映となりました。

● 新栄公園

大型プロジェクタによる背面投射による上映を行いました。

観覧者は各々、芝生の上で作品を鑑賞しました。



文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

● 石垣市民会館 大ホール

市民会館設置のプロジェクトと補助音響の導入による上映を行いました。



● まちなか交流館 ゆんたく家（1階）

中心商店街で人々が自由に滞留できる座敷に大型 4K 液晶モニタを設置、短編作品のループ上映を実施しました。



短編の上映スケジュールを、会場内に掲示しました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

関連催事・ワークショップ・プロジェクト

本事業にあわせ、石垣島からのメディア芸術による文化振興を推進するため、設営段階より関連事業を実施しました。これら各事業の実施を通じ、島の人々、特にこれからの担う人々に対して、経験や理解を深めることを企図してプログラムづくりを行いました。これらの取り組みから、次の石垣島の市民による文化振興につながることを期待しています。

● ワークショップ 「プラモ虫をつくろう」

出展作家の橋本典久によるワークショップ。昆虫の造形についての説明を行った後、参加者に自由に新たな昆虫を創造してもらい、その姿をスケッチしてもらいます。このスケッチと創造した昆虫の特性を、さまざまなプラモデルを組み合わせることによって創作、新たな昆虫の姿をつくりだす、半日のワークショップでした。

会期中4回開催しましたが、全ての回が定員を上回る盛況ぶりでした。

参加者は八重山地区の家族のみならず、広報を通じて宮古島や沖縄本島より来場した家族連れ、また、滞在中の県外からの観光客も含まれておりました。

島内や八重山からの参加者による成果物の創作昆虫は、石垣市民会館の特設会場において会期中展示、メディア芸術による学びの可能性を示しました。



「プラモ虫をつくろう」

● ワークショップ 「長岡 勉×モッコク会と「作る」を学ぶ木工ワークショップ」

石垣島産の材木（島材）の活用を推進する市民グループ「八重山島材研究モッコク会」の指導のもと、会場デザインに携わった建築家の長岡勉が設計した、石垣市民会館特設会場にて用いるベンチを、石垣島の高校生が島材を用いて製作するワークショップを実施しました。八重山農林高等学校と八重山商工高等学校より参加者が集まり、島の材料を用いてデザイン性のあるものづくりを自らの手で実現する経験を会得しました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

また、地元職人による「八重山島材研究モッコク会」のメンバーにとっても、地場の素材でデザイン性のある什器づくりに取り掛かれたことは、島からのものづくりにヒントと実際にクリエイティブをかたちにする機会を得ることができました。

● プロジェクト 「高校生による展覧会ガイド」

島内にある4つの高校（八重山高等学校、八重山商工高等学校、八重山農林高等学校、八重山特別支援学校）から募ったボランティアによる展覧会ガイド。日本語と英語による作品ガイドを支給、岡田ディレクターの指導のもと、会場ガイドを行いました。

さまざまなジャンルのメディア芸術の作品に触れながらのガイド補助は、島内にあって得難い文化的体験とそれをもとにした、外国人を含めたさまざまな人々を対象としたコミュニケーションスキルを磨く機会となりました。

アドバイザーボードによるシンポジウム「島で広がったメディア芸術の世界」

アドバイザーボード4氏（中島信也、四方幸子、工藤健志、岡田智博）を交えたシンポジウム。市民に対する展示作品の解説とともに、石垣島ではじめてとなる全国規模の現代を対象とした美術展としての展示や意義を評価し、市民に対して伝達する機会となりました。

● ラウンドトーク「島からアートをつくる」

メディア芸術を用いたまちづくりに取り組んでいる出展作家（藤岡定～annoLab）、現代美術やクリエイティブの要素を用いることで小豆島に活力をもたらした美術家（椿昇）、本事業の伊原間会場づくりを通じて集落にアートプロジェクトをもたらした地域おこし協力隊員（青木省悟）と岡田ディレクターとで、それぞれの経験によるアートを導入した地域づくりの取り組み方と、本事業の展示事例を通じてこれからの可能性を鼎談しました。市民と議論を共有することにより、本事業で得られた経験を、文化プロジェクトによる創造の可能性へと高めてゆく契機となりました。

● 文化観光つまあせー会 ～ クリエイティブカフェ in 石垣島

本事業の会期と同時期に策定中の石垣市初の文化振興プランである

『石垣市文化観光振興プラン』の策定にあたる有識者3名（佐々木雅幸、大工哲弘、太下義之）による、石垣市における文化政策の可能性を本事業の取り組みとあわせて公開で語り合いました。沖縄県無形文化財（八重山民謡）保持者である大工哲弘が中庭にあるガジュマルの木の



文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

で民謡を演奏するなど、本事業によって醸成された「創造の場」としての石垣市民会館のさまざまな表現や演出による活用のイメージを市民と共有した機会となりました。

● 作品解説

会期中石垣島に来訪した出展作家（クワクポリョウタ、池内啓人、橋本典久）と岡田ディレクターが講師となった、作品解説会を石垣市民会館特設会場において、作品を前にしながら実施しました。市民にとって、作家や企画者直々の開設により作品世界に触れられる機会となりました。



文化庁メディア芸術祭石垣島展

〜ひかりきらめくイマジネーション〜

協賛企画

石垣島や沖縄県内において、展示期間中と同時に開催された、メディア芸術関連企画や文化プロジェクトを文化庁メディア芸術祭石垣島展の連携企画として、相互の宣伝や協同事業を実施しました。

特に石垣市内においては、はじめてとなるアート街歩き事業の実験が、創造的な市民の協働によって行われるなど、本事業を契機としたアート活動を島で活性化させる取り組みの醸成がはじまる契機となりました。

やえやまアートホッピング

事業種別：市民参加型アート・クリエイティブ展示・イベント

主催：やえやまアートホッピング実行委員会

会場：石垣島を中心とした八重山各所

会期：11月29日（水）～12月17日（日）

本事業の開催を契機に、芸術家やアートマネージャーが中心となり、島内で表現活動の場を提供しているさまざまな民間の方々に呼び掛け、島内作家の展覧会、ワークショップ、文化スポーツの体験など多彩なアクティビティをひとまとめに紹介するはじめての企画が実施されました。

同企画にあわせ、アートホッピングでのアクティビティの提供場所や内容を紹介するインフォメーションマップを発行、文化庁メディア芸術祭石垣島展の会場情報をあわせ、市民や観光客が「アートを回遊」する取り組みづくりを行いました。



やえやまアートホッピングは、八重山地区（石垣市・竹富町）で活動するクリエイターやアーティスト、実演や展示の場の提供を行なっているスペースが、活動をそれぞれのスペースで公開する、島をアートで巡る（ホッピングする）初めての取り組みです。文化庁メディア芸術祭石垣島展の開催を機に、それぞれの個性あふれる創造性が、クリエイティブアイランドのイメージとなっている八重山からの魅力を発表します。風土が織りなすイマジネーションをおたのしみください。

オープンスペース
開催期間 2017年 11/29(水)～12/17(日)

クリエイター&アーティストスポット

吉田サバニ造船 (大分県サバニ造船) サバニ造船株式会社 〒822-0001
石垣市字平久保 234-282 ☎ 099-4669-2395
www.okadae-sailboat.com
ツアーは要予約 P 有



開館日 12/9(土) 13(水)16(土) 17(日) 10:00～17:00
12/9(土)12/9(土)～17(日) (開館)サバニの船匠と造船工場の見学
船匠サバニの歴史と作りあゆむWS(無料) | ツアー | web 予約 | 有料



文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

STARLIGHT NIGHT

事業種別：屋外アニメーション上映 主催：石垣市

会場：新栄公園 日時：11月24日（金） 18:00～

日本ではじめての「星空保護区」の認定を石垣市と竹富町が目指すため、地元八重山おける市民の機運醸成を目的に、本事業の屋外上映に先駆け、長編アニメーション映画を、星空のもと開催しました。

人工知能美学芸術展

事業種別：美術展覧会

主催：人工知能美学芸術研究会 [AI 美芸研] 沖縄科学技術大学院大学

会場：沖縄科学技術大学院大学（沖縄県恩納村）

会期：11月3日（金）～2018年1月8日（月）

本事業の開催と同時期に行われた、日本ではじめての「人工知能」をテーマにした大規模な美術展が県内で開催されていることにあわせ、相互の盛り上がりづくりとして、会場内でのポスターやチラシ掲出を中心に相互 PR を実施しました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

アンケート評価

本事業のアンケートは、12月10日に石垣市民会館大ホールにおける長編アニメーション『君の名は。』の上映にあわせ、同会館にて実施しました。

また、石垣市民会館特設会場のインフォメーションを採取場所として、個別アンケート表による対面による品質評価調査を実施、より具体的な内容の評価を市民より得ました。

12月10日の調査分からの統計（回答数 176人）

展示や企画に対する高い支持率

●「文化庁メディア芸術祭石垣島展」訪問した会場についての評価

	よかった	特にない	よくなかった	行ってない
1 市民会館展示会場	109	6	1	29
2 市民会館上映	134	1	1	18
3 ゆんたく家会場	22	4	0	79
4 新栄公園屋外上映	28	0	2	78
5 ホテルエメラルドアイル	23	0	0	83
6 離島ターミナル会場	14	7	1	77
7 伊原間会場	17	2	0	84

●このような全国的な大規模展示を島で

1 今後もっとあった方がいい	135
2 あったら足を運ぶ	38
3 特に期待はしていない	3
4 なくてもいい	0

来場者を対象とした調査ですが、モニュメント的に設置した離島ターミナル会場以外において9割以上にのぼる高い満足度を獲得しました。屋内上映時での回収のため、市民会館の会場以外に足を運ぶ人は少なかったですが、足を運んだ人は総じて好んだ回答を得ました。

また、同様の大規模かつ現代的なアートの展示やプログラムを石垣島で行うことを8割近い人が強く求めており、観覧を希望する人をあわせると98%の人が希望する結果となりました。また、以降の開催に対して否定的な回答はありませんでした。

市民やコミュニティに根差した実施と文化観光の可能性

●居住地

1 石垣市内	161
2 竹富町	1
3 その他沖縄県内	2
4 県外(帰郷中)	1
県外(東京)	4
県外(京都)	1

アンケート時に上映された作品が長編のヒット作であることから、映画館が近くに無い島でもあり、回答者は市内からの来場者がほとんどとなりました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

●回答者情報

年齢	～15歳	27
	～18歳	4
	～30歳	24
	～45歳	77
	～60歳	32
	61歳以上～	7

性別	男性	60
	女性	109

同行者の有無	いいえ	63
	はい(人数記入なし)	55
	2人	23
	3人	10
	4人	6
	5人	2
	6人	1

一方で、連絡船の時間を考慮にいたした上映スケジュールでしたが、隣接する竹富町からの来場者が1名のみだったことは、他のイベントと較べても少ないものとなりました。

また、東京や沖縄からの来場者は、アクティビティのひとつとして、本事業を選ばれたと考えられ、島内における新たな文化観光の要素として、質が高く触れたいアートや文化体験を導入する価値をうかがうことができます。

事業認知として、地域に密着した3要素がまんべんなく契機となりました。

全児童に小中学校を通じて配布したチラシ、市内各所に掲示したポスター。地域に密着した八重山をエリアとした新聞やラジオの報道と広告。その上に、多くの石垣島民が情報共有手段としているFacebook（1万人以上が加盟する島内生活のためのグループが複数存在している）を通じたSNS運用やWEBでの情報発信。宣材投入による手に取れる情報提供、マスメディア接触、ネットやソーシャルメディア接触のそれぞれが、石垣島の地域コミュニティの中において、接触可能かたちであふれることにより、認知の入口として機能しました。これらの認知の上に、口コミを通じた誘いが活かされて、来場が促進されたことがわかります。

ダイバシティ（多様性）のある文化の提供と市民全体からの支持

●何をみて知りましたか？(事業認知)

1	チラシ	44
2	ポスター	33
3	新聞報道	26
4	新聞広告	14
5	ラジオ	19
6	テレビニュース	3
7	ネット	14
8	ネット(Twitter)	2
9	ネット(Facebook)	20
10	ネット(HP)	6
11	市からのお知らせ	12
12	知人等からのお話より	53
13	偶然会場や作品を通りかかって	7

回答者の年齢層が高校生にあたる年齢以外においてまんべんなく存在していることがみてとれます。回答者として少なかった年代である高校生は70人近くが本事業のボランティアに自発的に応じた点を含めると、回答内容を含め、あらゆる世代や人々よりメディア芸術による質の高い文化体験が支持されたことがわかります。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

また、多くの児童にアンケートの回答を委ねているように、子ども達に対する、優良な体験として、評価されていることもみてとれます。

市民会館特設会場インフォメーションでの対面による品質調査 (回答数 26 人)

低いメディア芸術への認知

来場者が展示や上映に対して、満足度の高い評価を与える一方で、石垣島では「メディア芸術」および「文化庁メディア芸術祭」に対する認知が極めて低い状況にありました。

また、このような美術館のない場所での体験の場に関して、回答を求めたところ、ばらつきが高く、石垣島における質がたかく満足できる文化や芸術に触れる機会を求める一方で、特定の場に関する関心が薄いことがみてとれます。

また、他のイベントを目的に中心市街地に入り、同時にみるという流れは、他の用事を兼ねた流れの中での来場のほか、後の個別意見にあるように十分な周知がまだできておらず、その場で知って来場する人が多かったとみることができます。

これまで「メディア芸術」という言葉をご存知でしたか？

はい	2
いいえ	24

文化庁メディア芸術祭のことを知っていましたか？

はい	1
いいえ	25

このような文化庁メディア芸術祭をどのような場所で体験したいですか

田舎	8
古民家	3
里山	1
離島	3
屋外	4
どこでもいい	7

来場された目的

他イベントから	18
作品をみに	5
たまたま	3

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

来場者から寄せられた意見

来場者、すなわち市民から、本文化芸術事業に対して強い期待を今後にわたり、鑑賞を通じて感じられた反映として、数多くの意見がアンケートや聞き取り調査を通じて寄せられました。

回答内容をわけますと、文化の鑑賞機会に対するコメント、情操・教育的意義に対するコメント、今後への期待、運営についてのコメント、周知についてのコメント、作品についてのコメント、純粋な感想にわけられます。以下に、分析とともに全ての回答を掲載します。

文化の鑑賞機会として

- 島で触れることのない質が高く最先端のアートや文化に触れられたことを評価
- 映画館がない島で大画面での映画体験することをできたことを評価
- 規模の小ささに不満

全国的規模での現代的な美術や最新の映像に触れる機会となる展覧会やイベント、すなわち芸術祭は石垣島でははじめてでありました。そのことに対して、アンケート上での回答では高い満足を示しておりますが、個別の回答においても自らが住む島で体験できることに、意義を感じられていることがわかります。アートに対する体験と、映画に対する体験に大きくわかれますが、それぞれ多数の賛意を示す具体的なコメントが寄せられました。一方、無料であることを評価する意見も散見していることが注目されます。

また、規模が小さいという意見が多く存在しており、満足度を持ちながらも、より規模が大きく、作品点数が多く、充実した文化催事を求める声とみることができます。

【品質調査とアンケート個別の複数意見より】

- 「石垣には映画館がないので大きいスクリーン音量などやっぱりいいですね」「大きなスクリーンは最高！ いい映画をありがとう」「いしがきには映画を見れる場所がないので、すごく良かったです。もっと色んな人に見てもらいたいと思いました」「映画館のない島ありがたいです」(7件)
- 規模が小さい(7件)
- 質の高く新鮮な文化事業に触れる機会が島にないため素晴らしい機会でした(5件)
- 「他の会場も見に行こうと思います」「他の会場もまわってみます」(2件)

【アンケート個別より】

- 石垣(八重山)は自然豊かで楽しいですが、文化的な催し美術や映画に触れる機会が少ないので、今回の開催は本当にありがたく、うれしいです！
- 島にいると本やネットはあってもなかなか実物を見ることができないので、ぜひ今後もこのような機会を設けてもらえると嬉しいです。刺激になります！

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

- 便利なのやおもしろいのがあってすごかったです。プラネタリウムはいろんなものを組み合わせてつくったのに、めっちゃ綺麗でした
- 横浜トリエンナーレを見た後では、少し規模が小さいけれどもっと現代アートなどが日常生活の中にあるとうれしいです。
- とてもインスピレーションのすごさに感激しました。石垣島にいても最先端にふれられるのはいいことだと思います。
- 手に取って楽しめる作品がもっとあったらより楽しめたと思いました。ジョジョリオンが最新刊までそろっていたのが、ファンとしてかゆいところに手がとどいて、ここちよくかんしょうできました。
- 意義のある催しとは思いますが、規模が小さいのが残念。でも、まだ一箇所しか見ていないので、評価は早いか。
- エメラルドアイルのクワクポリョウタさんの作品にとても感動しました。
- 展示場をふやしてほしい
- 他の展示はチラッとだけ見ました。→あんまり興味が持てない。
- 新栄公園での屋外上映はとてもよかった
- 面白い試みが見られて良かったです。
- 映画をたくさんみたいです。
- 「映画を無料でみれて本当ありがたく思っています」「『君の名は』を見に来ました。無料で見ることができて良かったです」

情操・教育的意義

質の高い芸術と触れる体験を子どもに提供する機会を与えてくれた

高校生によるボランティア活動に高い意義と評価

今後も島に住む子供たちのためにアートプロジェクトが展開されることを要望

来場者アンケートにおいても多くの割合で家族連れや児童の数がみられるように、子どもの情操および教育に対して、本事業の意義を感じる声が寄せられました。特に、質の高いアートを求める意見が多く、子どもたちの価値観や能力を高めるため、島に住みながらにして触れられる機会が求められていることがわかります。求められている子どもたちへの文化や芸術に触れる具体的な場のイメージと、本事業が合致し、同様のものを今後も求められていることがわかります。

一方で、高校生によるボランティアガイドの活動に対して、多くの人より高い評価が与えられました。作品の専門的な解説ではなく、先端的な作品群への体験を促し、支援してくれた学生たちと鑑賞する市民との間の接し方は、高校生と社会との接点になる機会として、大人からも大きな意義と感じられました。また、ガイドや木工什器づくりといった活動は、島の社会の中の一員としての誇りを高校生にはもたらしめました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

【品質調査とアンケート個別の複数意見より】

- 子どもたちに質の高い芸術を経験する機会を与えてくれた（6件）
- 高校生ボランティアががんばっていた（6件）
- より低年齢の児童向けの展示や上映があれば望ましい（3件）
- 子どもに対して映画体験を与えることができた（2件）
- 子どもに対する学びの場を提供してくれた（2件）

【アンケート個別より】

- 子ども達が一流の作品にふれる機会が増えていくと、子ども達の価値観や創造力がより磨かれていくと思います。このような機会をつくってくださり、感謝しております。
- 子どもたちがアートにふれる機会が少なくとても興味深く見ていたので、このような機会を増やしてほしい！有料でもいいです！
- 高校生が丁寧に説明してくれ、こどもたちも喜んでいました。さわってはいけない作品が、手の届くところにあるのが少しストレスかも...（笑）今後もあれば楽しみたいです。やさしい対応ありがとうございます。なかなか島以外のモノを見るきかいがなかったのでたのしかった。
- 保育士です 知人から聞いたことをきっかけに園の子どもたちがエメラルドアイルの会場に行きました。子どもなりにとても感動していてよい機会だったのでもっとチラシを保育園や学校に配るなどの広告をすると、もっと多くの人が足を運べると思います。
- 子供たちに芸術をふれさせる機会がかぎられているのでこのような催し自体はもっと盛大にひらいてほしい。
- 新しい取り組みで楽しかったです。もうすこし低年齢の子供が体験できることがあるとありがたいです。
- 子どもへの学びの一つになったと思う。
- 子どもにも良い経験になったと思う。
- 子どもにむけてのものももっとあればうれしいです。
- 「映画館が無いので子供達と来れてよかった」「石垣で映画を見る機会がないので、子どもにはよい機会であった」
- 映画良かったですが、「君の名は」はちょっと子供にはむずかしいかな～
- 自分が作ったベンチにたくさんの人が座っていてとってもうれしいです。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

今後への期待

数多くの今後の石垣島でのアートプロジェクトを求める声
同じく、島での大スクリーンでの映画鑑賞機会を求める声

本事業は、満足度の高さとともに、個別の意見から、美術館がない島において、具体的なアート展示のイメージを示すものとなりました。まさにはじめての機会であることから、本事業そのものがベンチマークとなり、同様のものを同じく質の高い内容で、以降も石垣島で開催してもらいたいという意見を多数得ることとなりました。いわば、今後もさまざまなかたちである程度の規模を伴ったアートプロジェクトの実施が求められているととらえることができるでしょう。

また、映画上映日と重なったことも理由となりますが、大画面での映画らしい映画体験を石垣島でできることが屋内外のそれぞれのイベント体験として求められていることがわかります。

【品質調査とアンケート個別の複数意見より】

- ・ 同様のメディア芸術やアート催事をもっと石垣島でしてもらいたい（16件）
- ・ 大スクリーンでの映画上映鑑賞機会を石垣島で期待（9件）

【アンケート個別より】

- ・ 石垣にはこういう機会が少ないのでもっとふやしてくれたらうれしいです。
- ・ 島にいと本やネットはあってもなかなか実物を見ることができないので、ぜひ今後もこのような機会を設けてもらえるとうれしいです。刺激になります！（再掲）
- ・ 子どもたちがアートにふれる機会が少なくとても興味深く見ていたので、このような機会を増やしてほしい！有料でもいいです！（再掲）
- ・ 子供たちに芸術をふれさせる機会がかぎられているのでこのような催し自体はもっと盛大にひらいてほしい。（再掲）
- ・ 「今後も定期的に行って欲しいです」「石垣じまでのメディア芸術祭、最高でした！ぜひ今後も継続してほしいです！楽しかったです ありがとうございます！ スタッフのみなさん、お疲れ様です」
- ・ 文化庁メディア芸術祭石垣島展の中での「君の名は」の上映のみしか見えていませんが、素晴らしい映画を大スクリーンで見れることは、映画館がない石垣島では本当に嬉しい限りです。また次回に期待しています。
- ・ 「また開催して欲しい」「もっとお願いします」「もっとみたーい！」（同様1件）
- ・ 「こういう機会がもっとあったらうれしいです」「もっとこういった機会を増やして欲しいです。」
- ・ 「とっても楽しかったので、次も楽しみです。ありがとうございます」「楽しかったです。又あると良いですネー」
- ・ またぜひこのような芸術祭をして頂ければと思います！！

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

- ・ 「映画上映ふやしてほしいです！」「映画をもっとたくさんしてほしいです」（同様 2 件）
- ・ 映画館がなくなり淋しかった。流行った、話題となった映画を毎年やって下さい。
- ・ 暖かい時に公園で上映してくれたら行きます。今回は雨で残ねんでした。
- ・ 今後とも、一流の方や、一流の作品に接する機会をつくって下さること期待しております。
- ・ 「いしがきには映画館がないから、休日に良い作品の上映を（市民）会館でしてほしい」「もっとたくさん市民会かんでしょうえいしてほしいです」

運営について

現場サービスに高評価

人的な面以外のわかりやすさが課題

満足度の高さが反映するように、スタッフや高校生ボランティアといった現場でのサービスには高い評価をいただいております。その一方で、「わかりやすさ」と「わかりにくさ」の評価が拮抗、たとえば導線やキャプションのわかりにくさに対する意見が散見するなど、石垣島ではじめてとなる全国規模のアートプロジェクトであります。来場者への情報のデザインの改善に向けたご意見をいただきました。

また、車いすや幼児連れに対するアクセスの容易さを求める、実際の経験からの意見をいただき、今後の島での文化催事における課題が明らかになりました。

【品質調査とアンケート個別の複数意見より】

- ・ 場所がわかりづらい（13 件）
- ・ パンフレットが欲しかった（9 件）
- ・ 説明がわかりやすかった（5 件）
- ・ キャプションがわかりづらい（5 件）
- ・ どれが作品かよくわからなかった（3 件）
- ・ 子どもへの配慮がない（触らないで欲しいものは、手の届くところに置かないで欲しい）（2 件）
- ・ 誘導する人がいたら会場がわかりやすかった（2 件）
- ・ そもそも文化庁メディア芸術祭が何かわからない（2 件）

【アンケート個別より】

- ・ 長い期間の開催だったので、予定をたてやすく、全ての会場に足を運べてとても楽しかった。またこのような機会があればと思う。
- ・ ご説明ありがとうございました。楽しかったです。
- ・ 高校生が丁寧に説明してくれ、こどもたちも喜んでいました。さわってはいけない作品が、手の届くところにあるのが少しストレスかも...（笑）今後もあれば楽しみたいです。やさしい対応ありがとうございます。なかなか島以外のモノを見るきかいがないのでたのしかった。（再掲）

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

- 手に取って楽しめる作品がもっとあったらより楽しめたと思いました。ジョジョリオンが最新刊までそろっていたのが、ファンとしてかゆいところに手がとどいて、こちよかんしょうできました。(再掲)
- 市民会館の展示場が最初よくわからなかったので、ポスターはるだけじゃなく導線もっとわかりやすくしてほしいです。
- 何がどこで(土地名ではなく、会館の〇階などのこまかな情報) 展示されているのかが分からず、行ったものの展示とさがしまわったりすることが大変だった。
- 市民会館特設会場のキャプションの位置が低い。
- スタッフのおしゃべりの声が大きかった(注:エメラルドアイル会場)
- 車いすの案内があれば尚良かった。
- 車椅子の人には展示台が高すぎる(注:モルフォタワーの展示について)
- ベビーカーでのアクセスが難しい。
- 屋外上映良かったけど長編2本はきついです。
- 「この世界の片隅に」の屋外上映が観たかった。(注:天候中止に対して)
- 音響がとても良かったですが良すぎてエコーのように少々響いて聞きとりにくいところがありました。とても美しかったです
- 上映は夜に〇〇歳以上とか静かに見れる会があったら良かったです。
- 映画に字幕が欲しい。
- 石垣じまの、やたらと「クリエイター」や「アーティスト」を名乗る、別に何にも作ってないしような輩の展示は、ただの売名行為だからやめて欲しい。税金の無駄使いです。市役所と、そのだっさい「アーティスト」とのくさったゆちゃくが、またもや出て来ましたね。某さん。意味のない港のイモい絵とか、市の色んなイベントにやたらと出てくるけど、いいかげんにしろ。この方の生活費をまかなうためだけでしょう?心のない金もうけのラクガキ書いて、「アーティスト」「クリエイター」って怒りがこみあげてきます。

周知について

市民への周知が足りないとの意見

課題は事前、初動の機運醸成

満足度が高い企画であった一方で、広報が周知されていなかったという意見を多くいただきました。すなわち、来場に際して「もともと知らなかったが、にわか知って行ってみたらよかった」しかし「そのように知られていないのはどうなのか」という意見です。島でいちばん密接なマスメディア(新聞、ラジオ)を通じた頻繁な告知、それに石垣島の特徴として多くの人が島の情報手段として用いる Facebook 等による SNS や WEB による高頻度の情報提供、市の小中学校児童全員へのチラシ配布、高

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

校へのチラシやポスターの提供等の浸透策をおこない、成果を出していますが、それでも島での多くのリーチに到らないとの意見を多く得ました。

アンケートでは本事業の認知元として3割が口コミであると示すように、メディア対策のみならず、まさに島ぐるみで情報が人から人へと行きわたり、口コミやダイレクトな宣伝材料の浸透がなされるよう、展示や催事に向けた作業と同様に、より一層の機運醸成活動を事前および初動において行うことが、今後の島での文化催事の実施において必要とされることが明らかになりました。同様に、機運醸成を通じて広がる口コミの流れは、整理券の配布など新たな情報に対しても、メディア活用だけではないリーチを促すこととなり、そのようなコミュニケーションのデザインが課題となります。

島にたぎる催事の機運は、来島する観光客にとっても魅力の催事としてうつり、本事業でのワークショップや展示訪問にみられるような文化観光を促進させる、コンテンツとして磨きをかけるものにもなります。

【品質調査とアンケート個別の複数意見より】

- よい企画と評価した上で、広報が周知されていない（13件）
- 「存在を知らなかった」（10件）
- より早くからの上映整理券配布等の情報周知を（4件）

【アンケート個別より】

- チケット（注：整理券）の配布を、コンビニまたはスーパーでもした方がいいと思いました。
- もう少し情報が欲しかったです
- PRのしかたを一考した方がいいと思います。すばらしいイベントなのに、知らない人が多すぎます。
- もっと石垣市あげて盛り上がればいいのにすごく残念です。
- 高校でのポスター掲示がもっとわかりやすい方がよかった。
- たまたま12月になってから730コートビル（注：商業ビル）のエレベーターの中のポスターを見た。いしがき広報にはさんで配布すればよかったのに。
- 上映に行くのを楽しみにして、スケジュールを空けていたが、整理券配布についての情報を前日おそくに知り（検索で時間を確認時に気が付いた。）入れないのかと大変残念に思ったが、当日入れてよかった。島ではFacebookやTwitterを利用してない人も多く情報の伝達に問題があると思いました。
- 『君の名は。』の整理券配布の情報周知が遅すぎます
- 「Facebookを毎日みているが、この企画については全く知らなかった。」「FBで告知するとよい」
- チラシを見る機会はたくさんありましたが、映画の告知は小さくて見づらかった。
- 映画上映の開催は知っていましたが、展示会場の存在を知ったのが12/16（土）だったのが残念です。アートホッピングマップへの協力ももっと広く募って欲しいです。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

- ・ 偶然にこの展覧会を知りましたが、とても楽しく観させていただきました。ありがとうございます。

作品について

未知の作品から得た感動の話がより多くの人を作品体験に誘う

特筆すべきは、ホテルエメラルドアイルの会場にて展開したクワクボリョウタによる『10番目の感傷（点・線・面）』は、ほとんどの人が初めて接する作家であり作品であります。観衆から高い評価を得、鑑賞を勧める口コミが特に女性に広がり人気を集めたことでしょう。同様に、多くの人にとって今まで触れたことのなかった立体作品や短編映像に対して、評判が広がり、口コミで足を運ぶ人が多くいました。これらの人たちの鑑賞チャンスを設定するためにも、約3週間の展示期間は有効な時間となりました。一方で、特に目立った作品に対するネガティブな意見はみられませんでした。

【アンケート個別より】

- ・ 電話（Vomober）と虫の図鑑（Lifesize）がたのしかったです。
- ・ エメラルドアイルのクワクボリョウタさんの作品にとっても感動しました。（再掲）
- ・ 保育士です 知人から聞いたことをきっかけに園の子どもたちがエメラルドアイルの会場に行きました。子どもなりにとても感動していてよい機会だったのでもっとチラシを保育園や学校に配るなどの広告をすると、もっと多くの人足を運べると思います。（再掲）
- ・ 便利なのやおもしろいのがあってすごかったです。プラネタリウムはいろんなものを組み合わせでつくったのに、めっちゃ綺麗でした（再掲）
- ・ 君の名を上映してもらってよかったです。
- ・ きみの名はあきません
- ・ おもしろかったし、歌もすごかった。
- ・ 感動しました。（映画）
- ・ 映画館のない石垣で「君の名は」が見れて良かったです。
- ・ 映画の「君の名は」のお話は、とっても不思議な夢世界があっておもしろいので、次も上映して欲しいです。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

感想

感動をことばに出す新体験

美術館がなく、これまで目立ったこれだけの規模のアートプロジェクトで、市内各地で行ったのは本事業がはじめてのもとなっています。そのため、前例にない企画によることから、アンケートにおいても抽象的な意見かつ、今後の同様の文化事業の展開を数多く寄せられました。

その上で、コメントというよりも、感激を示す感想も数多くありました。

このような文化と芸術による感動と、そこから得られるさまざまな価値を、石垣島で得たいという市民の想いを経験できるかたちにしたのが、本事業であると理解することができます。

【品質調査とアンケート個別の複数意見より】

- ・ よかった、すばらしかった（12件）
- ・ おもしろかった、たのしかった（8件）

【アンケート個別より】

- ・ 「本日は本当にありがとうございました。大満足でした」「すばらしい時間をありがとうございました」
- ・ 感性にふれて、刺激があつて良いと思います
- ・ 「面白かったです」「たのしかった」（同様6件）
- ・ 「とても良かったです！！」「とても Good！」（同様6件）
- ・ すばらしい取り組みです。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

広報実績

本事業では、①チラシの配布やポスターの掲出を通じた直接的な宣伝活動、②Facebook、Twitter、WEBによるオンラインでの宣伝活動、③八重山地域を対象とする新聞、ラジオ、および県域全国を対象とするテレビを通じたPR活動と新聞広告の掲示によるマスメディア露出を3つの柱に広報活動を実施しました。

チラシの配布やポスターの掲出を通じた直接的な宣伝活動

～ 島ぐるみの期待と青少年へのアート体験への意欲が浸透

チラシはのべ26,000部を印刷、実行委員会に参画する教育委員会を通じ、石垣市内全小中学生を対象とした学校でのチラシ配布を実施しました。また、個別島内にある4つの高校に対して、チラシを提供し、配布を依頼しました。

市内各店舗、観光施設等への置きチラシを実施、手に取ってもらえる情報周知を行ないました。

結果として、高校においてはチラシを求める学生が多数あり十分に行きわたらない状況になるなど、多くの方が情報を手に取るためチラシを求め、部数が初版で足りない程の浸透となり、増刷対応を行ないました。

Facebook、Twitter、WEBによるオンラインでの宣伝活動

～ 会期中に継続した情報提供による広いユーザーリーチ

Facebook <https://www.facebook.com/mediaartsishigaki/>

本事業の特設 Facebook ページを開設しました。

会期前後の合計で、88,356回のPR内容に対する露出を実現、その中において16,112ユーザーに対しページ情報の閲覧行動を実現しました。(11月25日～12月20日の期間での集計)



文化庁メディア芸術祭石垣島展

〜ひかりきらめくイマジネーション〜

Twitter <https://twitter.com/mafishigaki2017>

本事業の特設 Twitter アカウント
を開設しました。

会期前後の合計で、PR 内容に対す
る 183,200 回の露出を実現、広く本事業
の認知が広がりました。(11 月～12
月の期間での集計)



WEB <http://mediaarts-ishigaki-jima.okinawa/>

本事業の特設 WEB サイトを設置、
開催情報の提供を実施しました。



文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

八重山地域を対象とする新聞、ラジオ、および県域全国を対象とするテレビを通じたPR活動と新聞広告の掲示によるマスメディア露出

～ 離島からの創造性あふれる取り組みを地域のメディアが応援そして批評、そして新しい世代による全県・全国からの注目

新聞掲載につきましては地域紙である「八重山毎日新聞」「八重山日報」において、企画内容の実施説明の記者会見に始まり、会期中、1面掲載中心で連日の報道を得ました。また、「八重山毎日新聞」にて1回、「八重山日報」にて1回、1面下の扱いで新聞広告を実施しました。

各紙とも、実施内容については質を含め高く評価する一方で、イベント等における参加者の少なさを指摘するなど、是々非々の報道を展開、「島ぐるみ」「島の人たちが現場をつくる」姿勢が特に評価され、今後の創造性のある文化プロジェクトの展開に期待を寄せる論調をいただきました。



ラジオ放送では、市域を放送範囲とする唯一の放送局である「FM いしがき」が15日間にわたり、PR告知や番組内での話題提供を実施しました。また、県内民放の「ROK」が1回紹介、「FM いしがき」が有する全国コミュニティFM放送枠『ガレッジセール』にて全国91局にわたる放送内紹介を1回行いました。加えて、本展アドバイザーである中島信也が担当する、「文化放送」首都圏放送の『なかじましんやの土曜の穴』にて紹介されました。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

琉球新報Style 沖縄の毎日をちょっと楽しく新しくするウェブマガジン

おすすめ まとめ あそぶ まなぶ みがく くらす たべる

文化庁メディア芸術祭石垣島展

JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL in ISHIGAKI-JIMA ISLAND

ひかりきらめくイマジネーション

★イチオシ！

南の島で『現代の魔法使い』と対話する (づめレポ 3)

石垣市民会館で楽しめる気鋭のアート (づめレポ 2)

離島初！沖縄初！石垣島がアートになる (づめレポ 1)

あそぶ
島からアートをつくるラウンドトーク (づめレポ 7)
沖縄本島から南に400km、八重山諸島の玄関口・石垣島へ。大自然に囲まれたこの島で11月29日 (2017年12月15日)
アート | 芸術 | アニメ | マンガ | メディア芸術祭 | 石垣

あそぶ
アートに出合って見つめる未来 (づめレポ 6)
沖縄本島から南に400km、八重山諸島の玄関口・石垣島へ。大自然に囲まれたこの島で11月29日 (2017年12月12日)
アート | 芸術 | アニメ | マンガ | メディア芸術祭 | 石垣

あそぶ
アートで島を再発見！ (づめレポ 5)
沖縄本島から南に400km、八重山諸島の玄関口・石垣島へ。大自然に囲まれたこの島で11月29日 (2017年12月11日)
アート | 芸術 | アニメ | マンガ | メディア芸術祭 | 石垣

美術手帖 NEWS INSIGHT SERIES INTERVIEW SPECIAL

テレビ番組については、「NHK」八重山支局発信にて総合テレビによる2回のニュース報道、県内民放の「RBC」において1回のニュース報道、市内ケーブルテレビの「石垣ケーブルテレビ」にて3回のニュース報道が行われました。

オンラインでは、県紙である琉球新報の文化企画面に、本展インフォメーション担当の橋爪千花の署名によるレポート連載が会期中、7回にわたる特集として展開しました。また、地元タウン誌の情報サイトである『やいまタイム』が、実施企画を逐次紹介。そして、『美術手帖WEB』（美術出版社）、『コロカル』（マガジンハウス）といった、美術、地方創生をテーマにした高い支持を集める全国規模のWEBメディアにそれぞれ1回紹介されました。

島民でつくりあげる展覧会。文化庁メディア芸術祭が石垣島に巡回

毎年選れたメディア・アートやマンガなどのコンテンツを表彰・展示する「文化庁メディア芸術祭」が、離島初となる石垣島で開催された。これまで多く巡回されてきた都市圏とは異なる、その特徴を紹介する。

f t B!



文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

アドバイザーボード

アドバイザーボードは、10月25日と12月7日の2回開催されました。

展覧会開催前に作品選定と展示方法について、展覧会期間中に本事業そのものの評価について公開で意見をいただきました。期間中には別途、本展実行委員会を交えた、事業から得た経験をもとにした今後の取り組み方について意見をいただきました。

開催前においては、離島であるため運搬が厳しいこと、美術館等のアート展示に適した専門施設が無いこと、メディア芸術展示のためのエキスパートは県外から招く必要があることといった、地域の環境にあわせた作品の選定の適切さ、活用する予定会場の妥当性が認められました。また、今後の選定となる里海部分での展示方法として、室内としての気象干渉が少ない環境を選定することが検討されました。また、地域を展示会場とした、アートプロジェクトでの場づくりに長けた展示デザイナーと製作ディレクターの起用により、ハードとソフト両面で、出来る限り島の人々が参画した設営と運営を実施し、そのことを島におけるアートプロジェクトの経験とするという取り組み方に期待が寄せられました。また、特別な設営や管理技術を要する立体作品を中心とするメディア芸術作品のインストールにおいて、望ましいスタッフ体制であることを確認、同じく、これらの経験が島での今後のアートプロジェクトの実施に向けた経験となることが期待されました。

会期中における評価について、総じて適切な展示が行われていることが評価されました。

特に、里海地域である伊原間会場での古民家の作業小屋を地域コミュニティとの協業によってつくられた、落合陽一による『コロイドディスプレイ』の展示会場とした設えに対し、石垣島の自然と生活が織りなす風景と作品があった空間づくりであることを四方幸子アドバイザーが評価。このような、市民が地域で展示したくなるような、そのことによって作品が映えるアートプロジェクトが石垣島で今後展開することに価値が生まれるとアドバイスをいただきました。

中島信也アドバイザーからは、石垣島の風土の魅力をより惹きたてる展示の取り組みであることに評価を得ました。その上で、協賛企画である「やえやまアートホッピング」をはじめ、食や自然環境、人々のホスピタリティや創造性をよるこぶ気風を高く評価しました。これらの点により、多くの創造的な人々が訪問したくなる場所の条件を備えているとして、アジア規模で石垣島を舞台に創造的な人々が交流し、その創造性を発表、これらを目的に人々が国内外から島に集まるような取り組みを、文化観光の推進手段として行なえる場所であるとの可能性を示しました。

工藤健志アドバイザーからは、前川國男設計建築の主張を活かしながら、ホールとしての活用のみならず、多彩なメディア芸術の立体作品の展示やロビーでの公開評価会といった施設活用が、展示の設えとしても機能していることが評価されました。

岡田智博アドバイザー兼製作ディレクターは、実施運営について各アドバイザーに説明を行いつつ、文化庁メディア芸術祭の地方展の実施を機に、島の人々によって展示空間がつくられ、グラフィック等のデザイン、そして運営が円滑に行われ、一定水準以上の場づくりが出来たことを評価し、同じく全て

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

の委員が賛意を示しました。また、はじめての取り組みに対して、適切な専門家の起用により、多くの市民がこのプロジェクトに携わり経験を得られたことも評価されました。

これらの評価を踏まえ、各アドバイザーより、本事業で石垣市や市民が得た経験をもとに、質の高い外部の才能との積極的な交流を通じ、島の人々が魅力を感じながら取り組み続けられる、そのことによって外からの人々がより一層、石垣島に魅力を感じられ訪問する、アートやクリエイティブなプロジェクトづくりが続くことに期待が寄せられました。



第1回アドバイザーボード（石垣市民会館）

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

本事業のまとめ 石垣島からのアートによる振興に向けて

文化庁メディア芸術祭石垣島展は、独自の文化と風土、そして多くの移住者や観光客が訪れる交流し続ける島である、石垣市にとってまたとない経験となりました。

美術館も大学も、映画館もない石垣島では、東京を中心とする大都市で体験できる、多様、新鮮、そして質の高い芸術やクリエイティブに触れる機会が普通には存在せず、多くは知らないまま、もしくは情報として触れる程度のもものとなってしまいます。

地域での新たな文化振興をわが国において掲げながらも、同じく進んだアートマネジメント等の考え方や取り組みをもった組織や主体が既になければそのことに呼応できず、取り組もうとしても先に進んでいる取り組みの方が優位になってしまう状況が地域にはあると考えられます。いかに、「ない」地域において構想し、かたちにできるかを取り組むにあたり、文化庁メディア芸術祭の地方展に取り組むことができたのは、島に「ない」文化を、島で「体験」し「活かす」ための大きな経験となりました。

アンケートでの意見やメディアでの扱いにあるように、最初、「ない」が「ある」になるために、よくわからなかったことが、展覧会やイベントがはじまり、実際に市民が触れることができるようになるにつれて、「こんな素晴らしいものがあるとは知らなかった、周知が足りない」と多くのお叱りをいただくまでに、島であるべきものへと、会期中という短期間のうちに高まったことは、まさに質が高く、また、時代を反映して日常と較べながら感じさせてくれるメディア芸術の作品の力であるということが出来ます。

石垣島の風土に魅せられ、島外から来訪するさまざまな人たちが、島で質の高いアートや表現を展開できるともっといいのではないかと考え、また、言います。たとえば、里海の光景が魅力的な集落地域にそんな思いをもって移り住む人がいました。しかし、「そういうものはわからない」という意見になってしまいます。伊原間会場で設えられた、古民家の作業小屋での落合陽



地元の職人の指導のもと高校生が建築家がデザインした八重山の木を用いて展示用ベンチを製作した『長岡 勉×モッコク会と「作る」を学ぶ木工ワークショップ』

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

一の作品展示は、小屋の佇まいを一変し、会場づくりを一緒に手伝った地域の人たちにとっても意義深い空間となりました。先端技術を用いた作品を地域のお年寄りがセットアップし、展示を行う日々は、たのしい経験であったといえます。

次の島を担う若い世代にとっても、島を誇りに思う親にとっては、その中で先端的で質の高い体験を子どもたちに提供できたことに深い価値を感じ、また、高校生たちは都会でしかできない経験や知識に直接触れることが出来たことをとても大事にしていました。

また、主に東京から観光に訪問したさまざまな人々は、石垣島の環境にあわせた展示にさまざまなかたちで感激し、親子でワークショップに参加することにより「石垣島らしい創造的体験」という気持ちを持ってくれました。

このように、実際に「なかった」ことが、現実のものとなり、経験することにより、市民や観光客にとって新たなイメージをもたらしたことは、とても重要な成果であったと考えています。

製作の側からみると、同じく島ではじめての取り組みであるため、設営、運営、広報といった各分野の市民にとって、はじめてのことだらけでありました。結果として、評価いただいた会場づくりと運営が実現しましたが、まさにこれらの経験を次に活かしていくかが課題となります。

文化庁メディア芸術祭石垣島展を通じて、「未知」のものが「経験」となった今、石垣島にとっての文化の活用に新たな展望が開けてきたと考えられます。多くの市民が高く評価し、アドバイザーからも可能性として示された、質の高い芸術や文化と島が市民を主役として交流する取り組みは、石垣市における文化を通じた満足度を高めるためにも、次の世代の子どもたちに対する機会づくりのためにも、そして魅力的な観光やサービスづくりにおいて、大きく求められるものであります。

市民が主体となれる交流を通じた豊かで持続可能な島づくりを実現するため、文化を軸にした、観光、まちづくり、教育との連携と国内外との幅広い交流による取り組みづくりに向けて、より一歩具体的な取り組みづくりがこれからの課題となるでしょう。

石垣市では、はじめてとなる文化を掲げた『文化観光振興プラン』が、本事業と同時期に作成が進んでいました。今後、島内外の文化を市民が積極的に活用していける石垣市に向けて、文化庁メディア芸術祭石垣島展という共通の経験を基盤として、前川國男設計建築による石垣市民会館の活用、国内外の芸術家やクリエイターと島を舞台に交流し新たな価値を生み出す取り組みづくりなど、期待に応えられる基盤づくりと取り組みづくりに取り組んでいきます。

文化庁メディア芸術祭石垣島展

ひかりきらめくイマジネーション

文化庁メディア芸術祭石垣島展 報告書

文化庁メディア芸術祭石垣島展実行委員会

調査・編集 岡田智博 文化庁メディア芸術祭石垣島展実行委員会 製作ディレクター

事業に関するお問い合わせは、文化庁メディア芸術祭石垣島展実行委員会の事務局を担当しました石垣市企画部観光文化スポーツ局観光文化課までお問い合わせください。

企画内容に関するお問い合わせは、製作ディレクターを務めました岡田智博までお問い合わせください
(電子メール okada@creativecluster.jp)